

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

② 評価調査者研修修了番号

sk2024096

s2024034

神機構-734

③ 施設名等

名称：	ポート金が谷
施設長氏名：	星 頼子
定員：	30名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	

【施設の概要】

開設年月日	2009/8/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人ル・プリ
職員数 常勤職員：	26名
職員数 非常勤職員：	6名
有資格職員の名称（ア）	保育士・幼稚園教諭
上記有資格職員の人数：	12名
有資格職員の名称（イ）	児童指導員
上記有資格職員の人数：	10名
有資格職員の名称（ウ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	看護師
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	
施設設備の概要（ア）居室数：	5ユニット（ホーム）、各ユニット個室6部屋
施設設備の概要（イ）設備等：	ファミリールーム（畳部屋、キッチン、浴室、脱衣室）
施設設備の概要（ウ）：	ショートステイルーム、心理療法室、会議室
施設設備の概要（エ）：	

④ 理念・基本方針

<p>【法人理念】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ル・プリに集うすべての人のウェル・ビーイング（良い状態/良い状況であること）を目指します。 2 利用者に対し、その人格の尊厳を尊重し、その人ごとの様々なヒューマン・ニーズを充足させる支援を行います。 3 人々がそれぞれに持つ脆弱性（ヴァルネラビリティ）を包み込める共生社会の実現に、社会福祉の実践者として参画します。 <p>【ポリシー】</p> <p>私たちの仕事は、具体的な人と人との相互の関係を何度も繰り返します。そこで、特別な困難や、輝きや、喜びや、驚きや、厳しさ・に出会うたび、それは相互のかかわりから切り出された、重要な価値（バリュー）なのではないかと感じます。そのかかわりに付随する価値を手にすること、そこにわれわれの仕事の本質のひとつがあると確信しています。</p>
--

⑤ 施設の特徴的な取組

<p>○今年度より、こどもたちは男女別ユニットで生活を送っている。ユニットでは、3名の職員とフリーの職員が生活をサポートしている。職員も同性配置を基本としているが、異性の職員が支援に入る機会も意図的に設けている。居室や浴室、トイレなど、入室のルールを決め、こどもだけでなく、職員の不適切な対応を防止し、プライバシーの保護に努めている。入室時や入浴時、トイレ使用時など、職員はこどもの権利やプライバシー保護の基本を守って対応している。</p> <p>○月1回、職員会議を開催する他、定期的に調整会議、ホーム会議、全体会議を開催し、養育・支援の質の向上に向けた取組を組織的に行っている。調整会議は全職員が参加し、全体会議で取り上げたいテーマを決めている。テーマは各ホームに持ち帰り、ホーム会議で具体的な対応策を検討し、全体会議に臨んでいる。全体会議には全職員が参加している。また、毎日、ミーティングを行い、支援内容や方法などについて、共有する機会を設けている。職員全員が考える場を設定することで、現場の意見を出しやすい風土作りに取り組んでいる。</p>
--

⑥ 第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2025/6/1
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2026/2/12
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和4年度（和暦）

⑦総評

○「くるみ会」「試行会」「杜の会」の3法人が、それぞれの地域での実践を通じて積み上げてきた成果を統合し、社会福祉法人ル・ブリとして、新しい法人を立ち上げ、各事業本部を中心に、児童、高齢、障害の各分野で広く活動している。ポート金が谷では、現在、25名の子どもたちが5つのユニット（ホーム）に分かれて生活している。これまでは男女混合のユニットであったが、子どもたちの年齢も高くなったことから、すべて男女別のユニットとしている。

○子どもたちの居室はすべて個室で、安心、安全な空間を提供している。居室内の掃除は、子どもたちが自分でやっているが、行き届かないのが現状である。頭ごなしの注意ではなく、子どもに合わせ、一緒に方法を考えたり、行ったりしている。リビングは担当職員が中心になって清掃し、子どもたちが手伝っている。家具の配置は、くつろぎやすいよう工夫している。テーブルも絵や学校のプリントなどを置き、家庭的な雰囲気を作るようにしている。

○居室には、好きなぬいぐるみを置いたり、ポスターを貼って、好みの空間を作っている。園庭ではサッカーやバスケットボールが可能で、友だちとの遊び場になっている。また、年代別の子ども主体の集まりで、性に関することや金銭管理、スマホの使い方などを学習している。タブレットやスマホは個人の物を購入するまでは、共有のものをホームで用意している。夏休みには、年齢別のキャンプやホーム旅行を行っている。子どもたちは子ども会議で話し合い、旅行先や宿泊数を決めている。旅行に参加するため、子どもたちは日頃の節約に心がけている。

○食事は委託業者が厨房で作っているが、朝食と月、木、土、日曜日の夕食は、各ホームで調理している。土曜日は、子どもたちがリクエストしたメニューを作っている。厨房の食事については、子どもたちが意見や希望を出している。子どもたちからは、目の前で調理するホームの食事の評判が良い。子どもたちは18時までには帰宅して、揃って夕食を摂っているが、アルバイトなどで帰宅が遅くなる場合は、電子レンジで温めたり、魚は帰宅後に焼くなどしている。週末はお菓子を手作りする機会もある。

○毎晩、それぞれの居室で10分から15分程度、担当職員が1対1で話をするようにしている。学校での出来事の話や、話がない時でも、ゲームなどで一緒に過ごしている。「自分だけの時間」を設けることで、精神的安定に繋げている。また、宿直の職員はリビングで就寝し、夜中でも人の気配が感じられる環境がある。日常生活のルールはあるが、「友達と外食して帰りたい」などの連絡には柔軟に対応している。子どもには「当日の連絡だけは避けよう」と伝え、次にはどうすべきか、本人が考えられるようにしている。

○アルバムに写真を貼りながら、本人と成長を振り返っている。また、リクエスト食と一緒に調理しながら、「祖母の懐かしい味」を思い出す時間を作っている。子どもから、「何で私だけ姓が違うの？」などの問いに対しては、子どもの知る権利も踏まえながら対応している。生育歴や入所に至った経緯など、どこまで、またどの時点で知らせるか、児童相談所や関係機関、職員全体で情報を共有して対応している。事実を知った後の様子については、子どもに寄り添いながら、職員全体で見守っている。

○進路については、子どもの意向を最優先し、家族や児童相談所を話し合っている。NPO法人の支援も受け、志望校の情報や児童自立生活援助事業、自立支援資金貸付事業、身元保証人確保対策事業など、個別に必要な制度の説明や利用方法の情報を提供している。また、児童養護施設出身の先輩に、卒園後の体験談を聞き、経済面や生活面のイメージができるよう支援している。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

前回、令和4年度の第三者評価においては、コロナの影響を受け試行錯誤しながらも、施設としてどのように子どもと向き合っていくのか、その経過を見ていただきつつ、様々なアドバイスをいただくことができました。

今回は、コロナ禍で求められてきた変化にも慣れ始めた中で、新たに始まった同性支援の取り組みなど、今までの支援と大きく異なり、職員が試行錯誤しながら進めている部分についても、その意図や考えをお聞きいただけたのではないかと考えております。

子ども達への聞き取りにおいても、前回同様に子ども達が話しやすい雰囲気を作ってください、素直な気持ちの機微を引きだしていただけたのではないかと思います。

今回の受審でいただいたご助言を元に、子どもにとって安心、安全が守られ日々楽しく生活ができるための最善を考えつつ、職員としても長く働いて行ける職場となるよう、ポート金が谷をより良い環境としていくために研鑽を続けていきたいと思っております。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○

<input type="checkbox"/>	理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

法人の理念やポリシーは、毎年、年度末から年度初めにかけて、職員会議で周知している。ポート金が谷の運営方針は職員からの意見を受けて内容を更新したりしている。また、法人の理念やポリシーは、職員の理解も統一されていないため、まずは言葉として理解するよう、月1回開催する職員会議において、職員で輪読している。子どもや保護者に対しては、資料の提示はしていないが、家族には子どもの入所時に、子どもには随時分かりやすい言葉を使用して、方針を説明している。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果	
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	
<input type="checkbox"/>	社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

月1回、法人内の児童・障害・高齢の部門長やエリア長が集まり、経営会議を開催している。経営会議では、国や地方自治体の動向や予算配分の状況把握などを行っている。また、月1回、児童部門の連絡会があり、施設長が参加して、施設経営をとりまく環境などを把握している。また、年1回、法人の経営ヒアリングにて、経営状況の確認を受ける他、10月～11月には、法人の事務局、部門長、エリア長のヒアリングを受ける機会がある。

② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a	
<input type="checkbox"/>	経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	<input type="radio"/>

【コメント】

現在、大きな経営課題はなく、運営も黒字で終始している。職員会議では、運営に関することは施設長から報告し、経営状況については、総務から報告する体制を整えている。経営状況のすべては職員に周知はしていないが、現状での運営状況や改善点については、会議の場で説明している。法人内には、児童養護施設が他に1ヶ所あるが、勤務形態が異なるため、職員の異動にはつながらない現実がある。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果	
① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	
<input type="checkbox"/>	中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○
【コメント】		
単年度の計画では、事業方針などを明示しているが、中・長期的な計画は、職員会議などで口頭で報告することが多く、実際に目標が達成できているかの評価はできていないことが多い。年度初めに、法人全体で「社会福祉法人・プリ事業活動方針」をまとめ、継続事業の目標や新規・拡充事業、改修・大規模修繕事業などの計画を明確にして示している。		
	② 5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。 <input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。 <input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。 <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。 <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	a ○ ○ ○ ○
【コメント】		
事業計画の内容自体は、実現を目指した内容になっているが、具体的な数値や成果を明示した内容にはなっていない。具体的目標については事業方針で示し、年度末に成果や状況について確認している。事業方針は、職員会議などで職員の意見を聞いて修正している。		
(2) 事業計画が適切に策定されている。		
	① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。 <input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。 <input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。 <input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。 <input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。 <input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	a ○ ○ ○ ○ ○
【コメント】		
理事会や評議員会にて、定期的に計画の評価や見直しを法人全体で行っている。また、その都度事業所の会議で職員より意見を募り、次年度に活かすようにしている。新年度の事業計画は、1月の職員会議で、施設長より事業所の方向性を伝え、職員の声を聞いて作成している。新年度の事業計画書は、パソコンのシステムの「掲示板」に掲載して、職員に周知している。		
	② 7 事業計画は、こどもや保護者等に周知され、理解を促している。 <input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、こどもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。 <input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容をこども会や保護者会等で説明している。 <input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、こどもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。 <input type="checkbox"/> 事業計画については、こどもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	a ○ ○ ○ ○
【コメント】		
こどもの入所の際には、パンフレットを用いて、保護者に理念や事業計画の内容を説明している。こどもたちに対しては、こどもが理解しやすい言語を用いて説明している。それぞれのホームでは、必要時に「子ども会議」を開催し、テレビの録画の順番やゲーム機の使用法、行事や旅行の行き先などの話し合いを行っている。各ホームにホーム費が支給され、予算を見ながら、旅行の行き先などを決めている。		

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
--------------------------------	-------------

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

月1回、職員会議を開催する他、定期的に調整会議、ホーム会議、全体会議を開催し、養育・支援の質の向上に向けた取組を組織的に進めている。調整会議は全職員が参加し、全体会議で取り上げたいテーマを決めている。テーマは各ホームに持ち帰り、ホーム会議で具体的な対応策を検討し、全体会議に臨んでいる。全体会議には全職員が参加している。また、毎日、ミーティングを行い、支援内容や方法などについて、共有する機会を設けている。毎日のミーティングは、他のホームの状況を確認できる場として有効に機能している。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○	

【コメント】

毎月、定期的に調整会議、ホーム会議、全体会議を開催して、職員全体で課題に対して改善策を検討している。取り上げるテーマは多岐に渉り、門限やスマホを持つ時期、対応が難しいケース、ヘルプの入り方、新規相談ケースの受け入れ、行事の計画などを検討している。職員全員が考える場を設定することで、現場の意見を出しやすい風土作りに取り組んでいる。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

施設長の役割は組織図で示し、月1回開催する職員会議の場では、会議の冒頭の時間を使って、施設長の思いや気持ちを職員に伝えている。また、国からの通知など、必要なものは文書にまとめ、職員に説明している。有事の際の施設長の役割と責任については、特に明確化されているものはない。施設長不在時の権限は、主査に委譲しているが、携帯電話により、いつでも連絡がとれる体制を整えている。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○

<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

県や市が主催する施設長会や研修会に、施設長が参加し、遵守すべき法令などを正しく理解し、施設運用に活用している。また、必要な情報は、月1回開催する職員会議の場で、職員に説明している。国の行政説明などにも積極的に参加して、具体的な取り組みにつなげている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

毎月開催する各種会議のうち、ホーム会議以外には施設長が必ず出席し、養育・支援の質の向上に取り組んでいる。また、年1~2回、職員と施設長の個人面談を実施している。個人面談では、職員の意見を聞くとともに、来年度の意向や上半期の振り返り、下半期に向けた動きなどを確認している。施設長との面談の他、職員は年2回、主査や主任との個人面接を行っている。毎朝、7時過ぎには施設長が各ホームを訪れ、こどもたちの様子を確認している。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

法人として、ゴミの分別などに配慮し、こどもたちにも資源が有限であることを伝えるようにしている。花壇には季節の花を植え、季節感を感じられるように工夫している。敷地のいたるところに木々を植栽している。働きやすい環境整備として、意見を言いやすい仕組み作り、皆で助け合う雰囲気作り、就業時間の厳守、業務過多を防ぐ話し合い、いつでも相談ができる体制作りなどに取り組んでいる。職員会議の他、調整会議やホーム会議、全体会議を定期的に開催して、職員が意見を言いやすい、フランクに話せる体制を構築している。現在の職員が働きやすい環境は、これまでの施設長の取り組みに依るところが大きいと感じている職員も多い。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果	
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○

<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	<input type="checkbox"/>
(社会的養護共通)	
<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

新卒を対象とした求人活動は、法人の人事担当が、学校回りや求人サポート会社を活用して行っている。中途採用の求人については、各事業所が担当し、社会的養護関係施設に特化した求人サポート会社などを活用している。法人全体で、1000人を超える職員がおり、福祉人材の確保は厳しい状況が続いている。求人募集には年々力を入れており、施設のブログなども定期的に情報の更新を行っている。今後は、若い世代に向けてSNSなどのメディアを用いたアピールも必要と考えている。人材の育成として、施設長、中核職員の研修は法人が担い、新人や中堅職員の階層別研修は、法人内の研修委員会が担当している。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

法人の理念やポリシーについては、職員の反応が芳しくなかったため、月1回開催する職員会議の場で、輪読を始めている。期待する職員像も、理念やポリシーを実現できる職員と考えているが、文書などで明確には示していない。施設長としては、子どもたちにとって暮らしやすい場所になってほしい、子どもたちが人を愛し、愛される人になってほしいと願っており、それを支えていく職員を期待している。施設長の思いは、職員会議で職員に伝えている。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

勤務時間が長くなるマイナス面はあるが、断続勤務は行っていない。職員からも現在の勤務形態を続けてほしいとの話がある。有給休暇の取得状況についても、特に問題なく消化している。年1回、人事に関する希望書を提出し、自分に合った職場への配属を希望する機会を設けているが、職員からの異動の希望は、ほとんどない。職員のメンタルヘルスとして、法人に健康相談室を設け、精神保健福祉士が対応している。日常の相談は、随時、主査や主任が対応している。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="checkbox"/>

<input type="checkbox"/>	個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
<input type="checkbox"/>	職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
<input type="checkbox"/>	職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

職員は経験年数別に、研修に参加する機会を設けており、希望する研修には積極的に参加できる環境を整えている。年1~2回、主査や主任の管理職によるスーパービジョン面接を実施している。職員それぞれが目標を立て、自己評価し、ホームリーダーの面接を受け、管理職によるスーパービジョン面接につなげ、日頃の取り組みを振り返る機会を設けている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a
<input type="checkbox"/>	施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
<input type="checkbox"/>	現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
<input type="checkbox"/>	策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
<input type="checkbox"/>	定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
<input type="checkbox"/>	定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

法人で階層別研修を企画、実施する他、職員のニーズや必要に応じて、施設外の研修に参加できる体制を整えている。外部研修の案内は、職員全員に紹介し、手あげ方式で参加者を決めている。また、職員に必要な研修は、施設長が参加者を決めている。施設内研修は、年間に10~12回開催している。研修委員会が、人権擁護やコミュニケーションスキルなどの研修テーマを組み立て、大学から講師を招いて開催している。大学からの外部講師は、4年間継続して、同じ講師に依頼している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
<input type="checkbox"/>	個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
<input type="checkbox"/>	新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
<input type="checkbox"/>	階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/>	外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
<input type="checkbox"/>	職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
<input type="checkbox"/>	(社会的養護共通) スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

外部研修に参加した職員は、報告書を提出し、必要に応じて、伝達研修を行っている。入職初年度より研修を受けられる仕組みを作り、職員全員を対象としたスーパービジョンの体制を確立している。新人職員に対しては、ホームの先輩職員が指導する体制をとっている。また、職員それぞれが年間の目標を立てている。目標を立てるのが難しい職員は、施設長がフォローしている。年間の目標はホームリーダーも内容を共有した上で、主査や主任のスーパービジョン面接につなげ、振り返りの機会を設けている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
<input type="checkbox"/>	実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
<input type="checkbox"/>	実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○

<input type="checkbox"/>	専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
<input type="checkbox"/>	指導者に対する研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/>	実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

主任を担当として、実習生の受け入れを行っている。受け入れ前には、施設長が大学を訪れ、実習前指導として、施設の特徴の説明などの講義を行っている。実習生は年間に涉り、随時受け入れを行い、保育実習を中心に20名ほど受け入れている。実習生が実習しやすく、こどもと馴染みやすくなるため、実習にあたって、「プロフィールシート」を提出してもらっている。実習生は就職につながるケースもあるため、今後も引き続き受け入れを行っていく予定である。

3 運営の透明性の確保

(1)	運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の有存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

ホームページやパンフレットに、法人の理念や予算決算などを掲載して、運営の透明性を確保するための情報公開を行っている。年1回、法人全体の広報誌を発行する他、年4回、エリア内の広報誌「くるみから便り」を発行して、活動の様子を報告している。掲載内容は事前にダブルチェックを行い、こどもたちのプライバシーの保護に配慮している。小学校のPTAの初回の活動の時に、施設長が挨拶し、施設の説明を行っている。地域に対しては、玄関前の掲示板にて行事や活動を知らせていたが、今年度からブログで活動内容を紹介していることから、掲示板には、こどもたちの作品などを掲示している。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

年1回、会計監査人による会計監査を実施するとともに、毎月、外部の会計事務所によるチェックを受けている。また、年1回、法人内の監事が各事業所を巡回して、公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取り組みを行っている。顧問弁護士や社会保険労務士に、いつでも相談ができる体制も整えている。

4 地域との交流、地域貢献

(1)	地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
①	23 こどもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> こどもの個別状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○

	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> こどもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々のこどものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="checkbox"/>
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

自治会の会員となり、お神輿や新入生歓迎会、地区の運動会など、子ども向けの活動には、積極的に参加している。子どもたちが参加するだけでなく、職員もスタッフとして、行事の運営の手伝いを行っている。小学生には習い事を推奨し、スイミングを中心に、チアリーディング、ピアノ、ボーイスカウトなど、自分のやりたい習い事に通っている。中学生は部活をやったり、塾に通っている。学校の友だちが訪れることもあり、グラウンドやリビングで遊んでいる。リビングで遊ぶ際には、他のこどもの理解をとってからにしている。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対してこどもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

主任や主査を窓口として、ボランティアの受け入れを行っている。コロナ禍では不定期な受け入れになっていたが、現在は定期的な受け入れとなっている。学習ボランティアやピアノ教室、アートトラック（美術）、みらい子ども財団の遊びのボランティアなどの訪問がある。また、外出やキャンプなど、外部団体の招待がある。ボランティアの活動後には、感想を聞いている。地域の小・中学校からの依頼で、教員向けに研修会の講師を担ったこともある。現在は、逆に施設に来てもらい、子どもたちの生活を見てもらっている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々のこどもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、こどものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

児童相談所とは常時、連絡を取り合っており、子どもたちを支援している。年2回、区が主催する虐待防止連絡会に、施設長が参加して、地域の子どもたちの状況把握に努めている。また、各学校との連携を積極的に行い、市内の中学校や地域との話し合いの場、学校家庭地域連絡会にも、施設長が参加している。消防署や駐在所、民生委員児童委員とも連携している。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設（法人）が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	<input type="checkbox"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	<input type="checkbox"/>
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

地域や区主催の会議へ積極的に参加して、地域の福祉ニーズを把握するよう努めている。施設の周囲は、落ち着いた住宅街で、戸建てが多く、高齢化の状況なども把握しやすい。地域からは、ホームページを見て、地域には遊び場が少ない、安心して遊ばすことができる場所がない、雨天でも遊ぶことができる場所がほしいなどの理由で、地域の乳幼児に施設を開放してほしいとの希望があがっている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

福祉避難所の指定を受け、地域の防災拠点として、防災備品を備蓄している。地域の防災訓練など、地域活動には自治会会員として参加し、子どもたちが炊き出し訓練などを行い、職員も付き添っている。これまで、施設内の会議室を貸室として地域に開放していたが、地域の集まりは夜間に開催されることが多く、職員体制にも問題があり、今後は対応を検討していく予定でいる。地域に向けた事業・活動は、入所施設としての難しさも感じている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 こども本位の養育・支援

(1) こどもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 こどもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、こどもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

理念や事業方針は、事業報告書に記載し、職員全体に明示している。毎月行う職員会議では、県社会福祉協議会の養育ブックを輪読して、職員間で共有している。法人及び施設で職員研修を開催し、外部から大学教員などを招いて実施している。研修ではグループワークなどを行い、職員個々のスキルを高めている。また、法人全体で、子どもの権利条約などを学び、研鑽に努めている。

②	29 こどものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> こどものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりのこどもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、こどものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> こどもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="radio"/>

【コメント】

今年度より、子どもたちは男女別ユニットで生活を送っている。ユニットでは、3名の同性の職員とフリーの職員が生活をサポートしている。居室や浴室、トイレなど、入室のルールを決め、子どもだけでなく、職員の不適切な対応を防止し、プライバシーの保護に努めている。入室時や入浴時、トイレ使用時など、職員はマニュアルに頼らず、子どもの権利やプライバシー保護の基本を守って対応している。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

子どもたちや保護者に対しては、施設のパンフレットを用意して、生活の様子を説明している。また、子どもたちには権利ノートを使用して、わかりやすく、子どもの権利や施設生活のルールを説明している。保護者との交流の際には、子どもたちの近況を報告し、関係性の継続に努めている。入所之际は、児童相談所と連携し、子どもが新たな環境に馴染むことができるよう説明し、安心感を与えるよう努めている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

自立支援計画の作成にあたっては、子どもと面談や話し合いを持ち、子どもの同意を得て作成している。子どもの思いを取り入れ、計画に反映して支援を実施している。支援計画の作成にあたっては、子どもたちの個別性に配慮し、わかりやすく説明している。退所した子どもたちの関係資料はすべて保管し、資料開示の希望に対応できるようにしている。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

家庭復帰した子どもには、誕生日などに手紙やLINEを送り、退所後の状況の把握に努めている。また、ホームカミングデイを開催し、退職した職員や退所した子どもたちが、施設を訪問しやすい環境を整えている。退所後も何かあれば記録に残しているが、退所之际の統一した引継ぎ書類は特に設定していない。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
---	-------------------------------------	---

<input type="checkbox"/>	こどもの満足に関する調査が定期的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	こどもへの個別の相談面接や聴取等が、こどもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員等が、こどもの満足を把握する目的で、こども会等に出席している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	こどもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、こども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

定期的に食事の嗜好調査を実施し、食事のメニューに反映している。毎朝と週4日の夕食は、ユニットで食事作りを行い、こどもたちは家庭的な雰囲気を楽しんでいる。また、土曜日にはこどもたちの希望メニューを取り入れている。子ども会議を開催する他、自立支援計画作成時の面談にて、こどもの思いを聞き取っている。スマホの所持や門限時間、消灯時間など、可能な範囲でこどもたちの思いを実現するよう取り組んでいる。

(4) こどもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
<input type="checkbox"/>	養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料をこどもや保護者等に配布し説明している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、こどもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、こどもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出たこどもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="radio"/>

【コメント】

苦情解決の仕組みを整備しているが、これまでに特に苦情が申し立てられたケースはない。苦情があった場合には、法人内の別施設の職員と連携して解決する体制を整えている。日頃より、こどもたちとは会話を多く持ち、こどもたちの声を聞くようにしている。こどもたちには、いつでも相談ができることを伝えている。

②	35 こどもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、こども等に周知している。	a
<input type="checkbox"/>	こどもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	こどもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

短時間ではあるが、常にユニット内で1対1で話す時間を設けている。こどもたちが話しやすいよう、ユニットの職員以外にも、フリーの職員が対応できることを伝えている。また、フリーの職員だけでなく、管理的立場の職員が対応できることも伝えている。こどもたちが相談の内容により、職員を選ぶことができるようにしている。

③	36 こどもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
<input type="checkbox"/>	職員は、日々の養育・支援の実施において、こどもが相談しやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	意見箱の設置、アンケートの実施等、こどもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	

【コメント】

子どもたちへのアンケートは実施していないが、ホームごとに意見箱を設置している。ただし、意見箱の利用はほとんどないため、子どもたちの声は、直接聞くようにしている。子どもたちの声から、アルバイト先などの検討やインターネットの利用などを、調整会議や全体会議で検討している。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。	第三者 評価結果
① 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> こどもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

事故の発生時には、事故報告書やインシデントレポートの活用など、事故対応マニュアルに沿って行うようにしている。施設長をリスクマネージャーとして、役割を担っている。施設外の安全確保にも努め、通学先の学校との連携など、職員が積極的に関わっている。また、安全対策や暴力防止プログラム(CAP)に取り組み、リスク管理の体制を確立している。

② 38 感染症の予防や発生時におけるこどもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直ししている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

看護師を中心にして、感染症対策を日々のミーティングなどで共有している。また、法人で事業継続計画(BCP)を作成している。感染症発生に備え対応マニュアルを作成し、常に見直しを行っている。感染症が発生した時は、個室対応を基本とし、ファミリールームも活用している。感染症の流行時には、子ども向けに感染しないための方法を掲示し、日々声かけしている。

③ 39 災害時におけるこどもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a
<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決まっている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策を講じている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決まられ、すべての職員に周知されている。	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="checkbox"/>

地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体、学校、病院等と連携するなど、体制をもって避難訓練等を実施している。

【コメント】

災害対策委員を中心に、災害時や緊急時の対応について施設内で共有している。毎月実施する避難訓練には、安否の確認の訓練も取り入れ、通学している学校との連携もとっている。備蓄品については、法人全体で確保に努めている。法人でBCP（事業継続計画）を作成し、災害想定シミュレーションや参集訓練を定期的に行っている。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。

第三者
評価結果

① 40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。

a

標準的な実施方法が適切に文書化されている。

標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。

標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。

標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。

【コメント】

養育・支援の実施方法は文書化し、プライバシー保護も確実にしている。周知については、職員会議で行っている。また、年間の事業の方針も職員会議などで職員に説明している。職員への研修は、ロールプレイを行うなど、実践的な研修を実施して、職員の意識を高めることができるよう取り組んでいる。

② 41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。

a

養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。

養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。

検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。

検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。

【コメント】

標準的な実施方法の見直しは、定期的には行っていないが、毎日のミーティングなどにおいて、支援内容の見直しや振り返りを定期的に行い、職員間で話し合いを行っている。子どもたちの個別支援計画は、上半期、下半期の年2回、見直しを行っている。課題があれば随時、見直している。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

① 42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。

a

自立支援計画策定の責任者を設置している。

アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。

部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。

自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。

自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。

支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。

【コメント】

個別の自立支援計画の策定の際には、毎回、子どもたちと面談を行って、本人の意向や希望の聞き取りを行っている。アセスメントについては、ホームの職員で意見を出し合い、すり合わせを行うことで、全体で計画を作成している。作成した自立支援計画は、職員間で共有している。また、パソコンの共有システムでも、パスワードの保護のもと、職員が閲覧できるようにしている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

作成した自立支援計画は、上半期と下半期で、見直しを行っている。見直しに際しては、他のホーム（ユニット）の職員とも共有し、全職員が意見を出せる場を設けている。半期に一度計画の振り返りを行い、子どもと職員が協働して計画の見直しを行っている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> こどもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

子ども一人ひとりの自立支援計画を作成し、セキュリティ保護のもと、計画の内容は記録システムを通じて、職員間でいつでも閲覧できるようにしている。日々の支援の他にも、特記すべき事項があり、関係職員で記録を共有するようにして、円滑な支援につなげている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、こどもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

規程に基づき、記録類の保管を適正に行っている。過去の書類は廃棄せず、すべて保管しており、退所した子どもが知りたい情報があれば、本人が閲覧できるようにしている。情報の管理責任者は施設長とし、パソコン上の記録はパスワード管理して、セキュリティ体制を整えている。

内容評価基準（24項目）

A-1 こどもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) こどもの権利擁護	第三者 評価結果
<p>① A1 こどもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/> こどもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> こどもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> こどもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。</p>	<p>b</p> <p></p> <p></p> <p></p> <p>○</p> <p>○</p>

【コメント】

法人の理念に「人格の尊厳を尊重する」ことを明記し、月1回の職員会議で読み合わせを行っている。施設内の研修では「子どもの権利条約」をテーマとして、研修を行っている。また、こどもの意見表明支援として、年2回、弁護士がこどもの声を聞く機会を設けている。こどもからは「小遣いの値上げ」などの話があがっていた。日頃より、こどもの声を多く聞くように心がけている。

(2) 権利について理解を促す取組	
<p>① A2 こどもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> こどもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員間でこどもの権利に関する学習機会を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/> こども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 年下のこどもや障がいのあるこどもなど、弱い立場にあるこどもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

【コメント】

こどもたちは入所時に、児童相談所から「権利ノート」をもらっている。成長の過程で、権利ノートの存在を思い出し、「権利」という言葉だけを主張してくる時もある。職員は「自分にも権利があるが、相手にも権利がある」ことを理解できるよう説明している。こどもたちは、入浴の順番やビデオの視聴順番などを、子ども会議で話し合って決めている。入浴の順番では、年齢や帰宅時間の違いなど、お互いの置かれた状況に配慮する気持ちを養うようにしている。

(3) 生き立ちを振り返る取組	
<p>① A3 こどもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> こどもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、こどもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

	<input type="checkbox"/> こども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、こどもの生い立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

アルバムに写真を貼りながら、本人と成長を振り返っている。また、リクエスト食と一緒に調理しながら、「祖母の懐かしい味」を思い出す時間を作っている。こどもから、「何で私だけ姓が違うの？」などの問いに対しては、こどもの知る権利も踏まえながら対応している。生育歴や入所に至った経緯など、どこまで、またどの時点で知らせるか、児童相談所や関係機関、職員全体で情報を共有して対応している。事実を知った後の様子については、こどもに寄り添いながら、職員全体で見守っている。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 こどもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・こども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、こどもに周知し、こども自らが訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料をこども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、こどもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

法人の理念「利用者の人格の尊厳を尊重」を、事業計画書に記載し、職員会議で周知している。虐待防止などの施設内研修を年9回開催し、職員へ注意喚起している。また、性教育専門の大学講師を招き、「職員間の関わり方やチームワーク」などを学んでいる。年代別のグループワークを行い、こどもが自分自身で身を守ることの大切さを教えている。こどもたちには、自分が話しやすいと思う職員に相談ができることを伝えている。職員の不適切な関わりは、管理職が事実確認し、行政へ報告するなど、法人の規程に基づいて対応している。こどもへは児童相談所が聞き取りを行っている。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 こどものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> こどもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、こどもの不安を軽減できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	○
	<input type="checkbox"/> こどもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更、里親等委託にあたり、こどもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	○

【コメント】

入所に際しては、まず、一時保護所で面接し、施設の見学では、通学ルートを一緒に歩いてみるなど、生活のイメージがわくよう丁寧に案内している。入所日には、本人の好きなグッズを用意し、好きな夕食で迎え入れている。家庭への復帰に際しては、お試し期間を繰り返したり、復帰後はこどもの誕生日に手紙やLINEで交流し、家庭復帰後の生活がスムーズに行われているか確認している。

②	A6 こどもが安定した社会生活を送ることができるようリーディングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> こどものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリーディングケアの支援を行っている。	○

<input type="checkbox"/>	退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

ファミリールームを使用して、卒園前に社会生活の練習ができる環境を整えている。また、卒園後の住まいの物件探しなども支援している。卒園後の相談には、アフターケアの担当や在園時の担当職員が、役割分担しながら対応している。退所後のストレスなどで子どもたちから相談を受けた場合は、状況に応じて、一時的に寝食の場を提供したり、就職の斡旋などを行っている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。 <input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。 <input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。 <input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。 <input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。 <input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	b <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>

【コメント】

保護者と交流が保たれている子どもは、日帰りや泊りで一時帰宅する場合がある。施設に戻ってきた子どもの顔色がすぐれず、「自分の居場所は親元ではない」と打ち明ける子どもに対しては、心情を受容しながら要因や一時的な感情かどうか観察している。自分の姓について疑問を持っている子どもには、どこまでどのように話すか、児童相談所と連携し、ホーム会議やケース会議で検討している。児童相談所とは、2~3ヶ月ごとにカンファレンスを行い、子ども医療センターとは年1回は連携して対応している。

②	A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。 <input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。 <input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。 <input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。 <input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。 <input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。 <input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	a <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>
---	--	---

【コメント】

毎晩、それぞれの居室で10分から15分程度、担当職員が1対1で話をするようにしている。学校での出来事の話や、話がない時でも、ゲームなどで一緒に過している。「自分だけの時間」を設けることで、精神的安定に繋げている。また、宿直の職員はリビングで就寝し、夜中でも人の気配が感じられる環境がある。日常生活のルールはあるが、「友達と外食して帰りたい」などの連絡には柔軟に対応している。子どもには「当日の連絡だけは避けよう」と伝え、次にはどうすべきか、本人が考えられるようにしている。

③	A9 こどもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○

【コメント】

年代別のA・B・Cのグループで、子どもたち自身が生活上の課題や要望を出し合い、話し合いを行っている。やりたい習い事は申し出るが、小学生のサッカーチームなど、参加が難しい場合もある。最初から否定せず、職員と一緒に見学に行ったりしている。自立支援計画書には、課題や取り組みたいことなどを記載し、達成できたことは褒め、足りないところは原因を一緒に考えて次に繋げている。

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	○
	<input type="checkbox"/> こどものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	○
<input type="checkbox"/> こどもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	○	

【コメント】

居室には、好きなぬいぐるみを置いたり、ポスターを貼って、好みの空間を作っている。園庭ではサッカーやバスケットボールが可能で、友だちとの遊び場になっている。また、年代別の子ども主体の集まりで、性に関することや金銭管理、スマホの使い方などを学習している。タブレットやスマホは個人の物を購入するまでは、共有のものをホームで用意している。夏休みには、年齢別のキャンプやホーム旅行を行っている。子どもたちは子ども会議で話し合い、旅行先や宿泊数を決めている。旅行に参加するため、子どもたちは日頃の節約に心がけている。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○

【コメント】

現在、朝の検温は未実施で、体調が悪い時には、子どもたちから申し出てもらっている。スマホは高校生から個人所有ができ、中学生以下の子どもは、施設の共有のスマホで操作の仕方などを事前学習している。こどもの減少で、町内の子供会がなくなり、地域のお祭りには、子どもたちは個々に友だちと参加している。中学になると、女子は衣服の洗濯などを自分で行き、生活力を養う機会としている。家庭での教育を受ける機会がないまま入所したケースもあり、やってはいけないことは、その場で注意し、良いことは、すぐにほめるなど、家庭と同じように接している。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですぐに食事できるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気で、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

食事は委託業者が厨房で作っているが、朝食と月、木、土、日曜日の夕食は、各ホームで調理している。土曜日は、子どもたちがリクエストしたメニューを作っている。厨房の食事については、子どもたちが意見や希望を出している。子どもたちからは、目の前で調理するホームの食事の評判が良い。子どもたちは18時までに帰宅して、揃って夕食を摂っているが、アルバイトなどで帰宅が遅くなる場合は、電子レンジで温めたり、魚は帰宅後に焼くなどしている。週末はお菓子を手作りする機会もある。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

衣服の購入は、使える金額が決まっており、学年が上の子どもは自分で購入している。小学生や中学生の一部は職員が同行して、自分で好みの服を選んでいる。子どもからは「サイズが小さくなった」「穴があいた」など伝えてこないこともあり、担当職員が確認しながら補修している。服装については、特に女子は流行に敏感なため、すぐにダメ出しはせず、おしゃれをしたい気持ちも受容しながら対応している。

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちの居室はすべて個室で、安心、安全な空間を提供している。居室内の掃除は、子どもたちが自分でやっているが、行き届かないのが現状である。頭ごなしの注意ではなく、子どもに合わせ、一緒に方法を考えたり、行ったりしている。リビングは担当職員が中心になって清掃し、子どもたちが手伝っている。家具の配置は、くつろぎやすいよう工夫している。テーブルも絵や学校のプリントなどを置き、家庭的な雰囲気を作るようにしている。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	

【コメント】

個々の医療情報（持病・アレルギー・受診記録）は、「すこやか日誌」に記録し、パソコン内で共有している。日々の体調については、子どもからの訴えや朝の顔色、いつもと違う様子などで、担当職員が確認している。状況に応じて、看護師が病院への受診に同行している。感染症に罹患した場合は、居室で隔離期間を過ごしている。薬は看護師が管理し、1週間分をホームの職員に渡している。感染症が発生した場合は、看護師が対処方法を職員に伝えている。

(6) 性に関する教育

①	A16 こどもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、こどもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちは年代別のグループで、性について学習している。小学校低学年は、ボディパーツやプライベートパーツ、距離感などで学習している。中・高校生は、成長に応じた学習を行っている。職員は外部研修に参加して、性教育について学んでいる。ホーム内の構成を、男女混合から男女別に変更したり、ホーム内の死角対策として、複数で使用可能なトイレも入口に「使用中」の札を下げ、1人使用としている。職員も同性配置を基本としているが、異性の職員が支援に入る機会も意図的に設けている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 こどもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲のこどもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、こどもの行動上の問題の軽減に寄与している。またこどもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもたちは、自分の気持ちを言語化できず、不適切な行動を引き起こす場合がある。どのような理由があらうと、暴力行為は行ってはいけないことを指導している。攻撃されやすい職員の精神的ケアに取り組み、要因を一緒に考えている。子どもからは、なぜそのような行為となったのか、じっくり話を聞き、相手にも人格があることを理解できるよう支援している。子ども個人への非難とならないよう、施設全体の問題として検討しているが、児童相談所も関与し、一時保護に至った事例もある。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	○

【コメント】

性的被害の防止もあり、ホーム全体を男女混合から男女別の構成に変えている。子どもたちの居室はすべて個室で、ホーム内の仲間であっても、他の子どもの部屋には入ることができない。宿直の職員は、各ホームのリビングで就寝し、すぐに異変に対応できる体制をとっている。思春期の中学生が多く、子ども同士でトラブルもあるが、グループ別の会議や子ども会議で、ルールの再確認や「ちくちく言葉(嫌な気持ちになる言葉)」「ふわふわ言葉(嬉しい気持ちになる言葉)」について話し合いを行っている。また、個別のトラブルについては、双方の子どもと担当職員で話し合っている。男女交際については、過度な行動にならないよう、ペアだけでの外出は控えるなど指導し、見守りを行っている。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○

【コメント】

臨床心理士を配置し、心理アセスメントや、1階の専用スペースで心理療法を行う体制を整えている。セラピーの内容については、担当職員や児童相談所の心理司と共有しながら実施している。また、児童相談所の心理司からはスーパービジョンを受けている。毎晩、子どもと職員が1対1で過ごす時間を設けることで、子どもの精神的な安定に繋げている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

小学生は、週1回、地域の学習ボランティアに勉強を見てもらったり、公文式学習に取り組んでいる。また、子どもたちは、リビングで宿題をすることが多く、職員がそばで支援している。進学に向け、塾に通っている子どももいる。学校の担任から話があり、特別支援級へ編入するケースもある。忘れ物や宿題など、学校の担任とは連携がとれており、スマホに連絡がくることもある。

②	A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 児童自立生活援助事業、社会的養護自立支援拠点事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、積極的に措置延長を利用して支援を継続している。	

【コメント】

進路については、子どもの意向を最優先し、家族や児童相談所を交え話し合っている。NPO法人の支援も受け、志望校の情報や児童自立生活援助事業、自立支援資金貸付事業、身元保証人確保対策事業など、個別に必要な制度の説明や利用方法の情報を提供している。専門学校へ通っている場合は、学校の担任と連携して職業体験など、巣立ちの準備をしている。また、児童養護施設出身の先輩に、卒業後の体験談を聞き、経済面や生活面のイメージができるよう支援している。

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

高校の校則や門限、学業に支障がない範囲で、子どもたちはアルバイトを行っている。アルバイトは、巣立ちに備え、社会のルールや金銭感覚などを習得する機会と捉えている。アルバイトを行っている場合は、門限を22時としている。職場実習は、就労のイメージや自分に合う仕事を見極める手段となっている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

家族には、こどもの入所時に、施設の理念や方針をわかりやすく伝えている。自立支援計画の作成時や普段から、家族とは連絡をとるようにしている。特に窓口は設けず、それぞれの担当職員が、日頃の様子や健康面での報告、学校・施設の行事などを連絡している。また、連絡する時の言葉やトーンに配慮し、家族の立場や気持ちに配慮している。親の希望で一時帰宅する場合もあるが、ホームに戻ったこどもの様子は、満足した様子ばかりではないことも多い。こどもの心身面から出るサインを見逃すことなく察知するよう、職員全体で心がけている。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

法改正もあり、家庭復帰を優先し、ファミリールームの利用や一時帰宅で、家庭復帰に向けた支援を行っている。交流ができていない家族については、定期的に児童相談所を交え、交流の振り返りを行い、課題や不安など家族任せにしないよう支援している。家族が高齢になっている場合も多く、遠方の兄弟や親戚に連絡先が変更になっても、関係が途切れないよう対応している。戻ってほしい家族の願望と、復帰を希望しないこどもの調整については、こどもの意向を尊重しつつ、児童相談所を含めた関係機関と、最善の方法を検討している。